

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300144		
法人名	有限会社長寿松		
事業所名	グループホーム時の村12号館		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれ、自然あふれる環境の中、四季折々の制作活動やおやつ作り等を通し、生活の活性化を図っています。また、近隣への散歩やドライブに出掛け、季節ごとの催し事や、四季に応じた外出支援を行っています。家庭的な雰囲気の中、生活リハビリとして、家事等を職員と一緒にいき、自立に向けた笑顔あふれる温もりのある暮らしを支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、職員が利用者の尊厳を重視し、人生の大先輩として敬意を払うことを意識している。利用者の得意なことを活かし、「ありがとう」という感謝の言葉が増えるよう、職員は常に心掛けている。この取り組みによって、利用者が自信を持ち、充実した生活を送る手助けをしている。また、訪問診療が月に2回、訪問看護は毎週行われ、健康管理が徹底されている。これにより、コロナやインフルエンザに感染した利用者はいない。入浴に際しても、利用者の意思を尊重し、無理な入浴を避け、本人のペースに合わせたケアが提供されている。さらに、危機対応についても、事業継続計画(BCP)が策定されており、全職員が発電機の操作を含む定期的な訓練を実施している。看取りについても、専門的な対応が可能であり、必要に応じて適切な支援が提供される体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を玄関に掲示し、理念の実践に向け取り組んでいる。また、ホーム独自の理念を掲げ、職員全員意識を高め、業務にあたっている。	利用者一人ひとりが人生の大先輩であることを意識し、安心して日常生活が送れるよう支援する姿勢が徹底されている。個々の性格に応じた接遇を行い、職員会議やケア会議では利用者個人の尊重が基本となっており、理念に基づいた運営が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入をして月に2回、区長から広報誌が届く。その際、情報交換を行っている。秋祭りは地域役員の計らいによりホームまで出向いて下さり、参加をし、交流しているが、コロナにより縮小されている。	自治会の区長が毎月2回、市の広報誌と地域情報を直接届けてくれるなど、地域との密接なつながりが築かれている。利用者は秋祭りの再開を強く望んでおり、地域行事への参加意欲が高い。退所した利用者の親戚が差し入れを行うなど、地域との絆が深く、事業所と地域との連携が円滑に進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流を深め、認知症の人の理解や支援の方法を発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、市役所の高齢者支援課、地域包括、民生委員、自治会長、家族と共に入居者の情報やサービスの実践等について話し合い、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2か月ごとに開催され、勝浦市役所の高齢者支援課長や地域包括支援センター職員、民生委員、区長、利用者家族が参加している。会議では活動報告のみならず、事業所からの要望も取り上げられる。夜間、真っ暗な事業所前に街灯設置の要望を行い、区長が迅速に対応してくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、事業に関する相談等連絡を密に取っている。今季節、インフルエンザ・コロナ・ノロウイルス等の感染状況の情報をもらっている。	勝浦市高齢者支援課とは、施設の入居状況や入居希望者の情報を日常的に共有し、連携を強化している。コロナ禍では、地域包括支援センターから感染対策の重点ポイントを受け取り参考にした。また、勝浦小学校の学級閉鎖やインフルエンザの感染状況についても、市の担当者から情報を得て、地域の状況に即した対応を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たるかを、研修にて学び、職員一人ひとりの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ行っている。	現在、重度化で特別な対応が必要な利用者はおらず、身体拘束を行わずにケアを実践している。職員の言葉使いにおいて「ちょっと待って」と言うことがあるが、職員同士で注意し合い改善を図っている。待機をお願いする際には、「いま行きます」やその理由を添えることで、利用者が納得して下さる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても職員の会議で話し合い、資料を用い職員研修を行い、職員の言動について、虐待に当たらないか注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を用い、社内研修を行い、レポートにて理解の確認を行い、活用できる様にする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の時には、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望については、外部の相談として勝浦市役所高齢者支援課、内部には苦情・相談窓口を設置している。意見・要望については、運営に反映させるよう努めている。	毎月「時の村だより」を発行し、行事やイベントの様子、利用者一人ひとりの状況を家族に郵送している。家族からは感謝やねぎらいの言葉が多く、また現状維持を希望する要望や、安全で穏やかな生活を求められることが多い。看取り段階にある利用者の家族には、LINEで日々の様子を写真で送り、こまめな対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、定期的で開催される全体会議にて反映している。	毎月の全体会議では研修を中心に行い、ケア会議では日常のケア方法に関する改善提案が活発に行われている。法人全体の館長会議では、社長や法人幹部が参加し、館長からの要望や意見を述べる場が設けられている。施設の設備に関する改善要望も出され、会議には工事担当者も参加しているため、対応が迅速に行われ、職員の意見が反映されやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望の時間帯に働けるような取り組みや、職場環境の整備などを行い、なるべく長く働いてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員の質の向上を目指し、研修に参加できる環境を整えるよう努めている。又、ズームでの研修を行い、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内にて、情報・意見交換を行い、他の施設の優れた点を取り入れて、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が訴えていること、困っていること、要望等に耳を傾け、表情や仕草等から汲み取り、望んでいることを把握し、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握して、支援出来る様心掛け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる支援を見極め、他のサービスも視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般やその他について、利用者の知識や経験を教わりながら、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は、ほぼ築けている。職員、家族共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人との面会など、関係が途切れないようにしている。日々の会話の中から思い出の場所等を把握し、外出支援を行っている。	自室には、利用者が持参した思い出の品を飾り、これまでの生活が継続している感覚を大切にしている。訪問カットは3か月ごとに行い、利用者が慣れ親しんだサービスを提供している。また、家族との時間が最も楽しいと感じる利用者には、できる限り一緒に外出できるよう支援を行っている。利用者の昔の体験談については、職員が興味を持ち、丁寧に傾聴することで、馴染みの関係を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動を通し、利用者同士で会話をしたり、歌を歌ったりして関わりを持ち、職員がそれを支えるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も、本人や家族に気軽に相談してもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族から意向や希望等を伺い、日常的にコミュニケーションを図り、表情や言葉から意向や希望等の把握に努めている。	入所時は面会方式で安全や安心に関する説明を行うと同時に、家族の意向をお聞きしている。利用者本人の意向を考えると、入所することに対する抵抗感があるのはよく分かるが、面会時では家族の意向を受け入れるしかない。入所後は家族の協力を得ながら本人には早期に慣れて頂く努力を行う事を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント表に、入居前の暮らし、趣味、生い立ちを記入し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態は、介護記録に記入し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や希望、職員の意見などを、ケアマネ同席でカンファレンスを実施し、計画を立てている。	介護計画は、初期の場合を除き、月1回のケア会議にて、ケアマネによるモニタリング結果や職員のケア報告から検討されて決まるが、個別的な対応を検討しなければならない場合は看護師や、主治医に相談したり、その時点での体調や身体能力などを考慮しなければならないし、かなり時間が掛かるケースがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を各自のケース記録に記入し、それを参考に介護計画に活かしている。毎月ケア会議を行い、介護計画を見直し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出支援を行い、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第2,第4火曜日、東条病院の訪問診療にて、適切な医療を受けている。	昨年度利用者個人契約による訪問診療に切り替え、月2回の往診によりそれまで行っていた通院支援の必要がなくなり、さらには家族の安心にもつながる事もあり、大変感謝されている。内科のドクターのため、他科への診療については事業所側で通院支援を行う事が必要となる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週一回のペースで健康管理を行っている。緊急時は看護師に連絡し、指示・対応を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談に努め、良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最後を迎えられるよう、家族、かかりつけ医、看護師、職員で連携を取り、事業所で出来ることを共有し、支援している。	現状2名の看取りケアを行っている。入所時の家族とは終末期の対応について話し合いを行っているが、その時の内容は、置いておき、今ご家族がどうしたいのかを優先的に考え、受け止めるようにしている。別契約となるが週1回の訪問看護対応も可能であり、ご家族には満足して頂ける対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故・緊急時対応マニュアル」に沿って、対応を行っている。また、事故が発生してしまった場合の、事故等再発防止の対策も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員指導の下、日中・夜間と想定を変え、年2回業者の点検時に合わせ、避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。	昨年度から年3回の災害訓練を実施している。5月と11月は日中、夜間想定火災、9月には地震想定避難訓練を行った。さらに9月には頻発する地震を想定した訓練を行った。利用者は年々足腰も弱くなってくる事も想定しながら、避難場所や避難方法も考慮しながら訓練を行って行く必要性を感じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員という関係より、家族の一員であるという意識で支援しているが、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	日常ケアにおける、排泄支援、入浴支援などにおいては利用者本人へのあからさまなケアが行われる事の無いように注意を行っている。基本的に普段の会話の際、個人情報やプライバシーに触れない事を徹底しているが、職員には常日頃からそういった意識を継続的に持ち続けるよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いによって異なる場合もあるが、本人の意思や希望を表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程はあるが、一人ひとりの体調やペースを大切にし、希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットを行い、本人の希望やその人らしい支援をしている。衣類は、職員と一緒に選び、本人の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る利用者は、積極的に参加してもらい、職員と一緒に食事作りや片付けを行っている。	食材は、栄養士がいてメニュー提供頂ける業者から仕入れ、調理は職員が行う方式で提供している。食事のお手伝いが出来る方は現在4名あり、ジャガイモの皮むきとか、食後の洗い物程度は可能である。メニュー変更は出来ないが、盛り付けの工夫や、刻み、とろみを加えたり、個別の事情に対応して食べやすくして差し上げる様にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を、個人記録に記入し把握している。一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで歯磨きを行い、できない人は一部介助。月一回の訪問歯科の受診で、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して定期的に誘導を行い、トイレでの自立排泄の支援を行っている。	利用者のうち2名は自立しているが、後は排泄介助が必要な方ばかりである。排泄記録はアナログで管理され、それを共有することでトイレ誘導を行っている。オムツの使用も日中、夜間共に4名は必要な状況である。完全自立が理想ではあるが術もなく、難しい状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、食物繊維、乳製品、水分摂取量に気を付けている。毎日ラジオ体操を実施し、歩行や屈伸運動を一部に実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴、清拭など、本人の希望を取り入れ、拒否する人には声掛けのタイミングや、工夫を行い、入浴してもらえるよう努めている。	冬場は週2回の入浴、夏場は週3回入浴を実施している。入浴介助は職員ローテーションにより、問題なく対応が出来ているが、入浴拒否をされる方もあり、なかなか思う様に利用されていない。この冬は特に気温の低い日もあり、脱衣場にカーテンを取り付け、暖を取れる環境整備を行った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のエアコンによって室内の温度設定を行い、定期的にシーツ交換を行い、天気の良い日には布団を天日干しし、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症の度合いによって、使用している薬について理解できる人と、できない人がいる。飲み忘れがないよう、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っているラジオ体操や日々の家事等の役割、毎月の行事等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、季節ごとの催しや四季に応じた場所への外出支援を行っている。	年間行事予定に対して、利用者にはこの時期の外出支援については、初詣、勝浦まつり、川津桜のお花見と初春から初夏にかけて楽しみにされているためしっかりと実施する事にしている。コロナはほぼ解消したとはいえず、感染対策についてはまだまだ行った上で実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理するのが難しく、ホームで金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご本人の様子を電話で報告時に、ご本人に電話を代わり、お話出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、季節の飾り物を飾り、季節感を採り入れている。目の付く場所に思い出の写真等を掲示し、明るく居心地の良い空間作りの工夫に努めている。	日中、リビングに皆さん集まり、ゲームをやったり、トランプを楽しんだり、経験のある利用者は卓球をテーブルの上で行ったりして楽しんでいる。利用者の皆さんが集まる場所なので、季節行事にちなんだイベント企画や、季節感のある飾り付け、掲示物、写真など雰囲気作り、室温、照明、防湿などにも職員は気遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では席の配置を考え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮している。共用空間や居室にあるエアコンで空調管理し、居心地よく過ごせるよう努めている。	居室は全て畳部屋であり、ベッドの持ち込みも可能である。ご要望により、こたつ、電気毛布などを利用される方もいる。現在は、居室内での面会も許可できるようになっており、ご家族にも喜ばれている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが本人らしく、自信を持って生活が出来るように見守り、自立した生活が送れるよう支援している。		